4. ことでんの利用促進に向けた課題の整理

以上のことでんをとりまく現状及びニーズから、ことでんの利用活性化に向けた課題を以下のように整理します。

〔ことでんを取り巻く状況〕

■人口構造の変化
- **■学生・生徒数の減少**
- **■高齢化の進行**

■土地利用動向の変化
- **■線引きの廃止**
- **■郊外部におけるショッピングセンターの立地**

■交通体系に係る動向の変化
- **■競合関係にある幹線道路の整備の進展**
- **■高速バス体系の整備**

■ネットワーク
- **■脆弱な鉄道間乗り継ぎ環境**
- **■バスとの結節性の弱さ**

■運行サービス
- **■低サービスの区間、時間帯の存在**

■駐車場・駐輪場
- **■駅の駐車場や駐輪場の利用率の高さ**

■利用者数
- **■利用者数は減少傾向**
- **■朝ピークに集中する利用**
- **■都心 3 駅に集中する利用**

ことでんに対するニーズ（利用者、非利用者）

■非利用者が使わないのは「自動車が便利だから」
・自宅や目的地が駅から離れていることや所要時間、ことでんの運行間隔が長いこと等が背景。

■運賃、運行頻度、駅駐車場、駅駐輪場、乗り継ぎ、終発時刻に対する不満が多い
・非利用者は、利用者と比較して、特に、駅駐車場、頻度、乗り継ぎ、終発時刻等に対する不満が大きくなっています。

■ことでんのサービス改善要望として、運行本数の増便、運賃の割引、鉄道間の乗り継ぎ距離短縮等のニーズが高い

■周辺環境整備施策として、P＆R駐車場の充実、新駅の設置、高速バスとの接続、バスとの共通割引制度、駅接続バス路線の充実等に対するニーズが高い

〔ことでんの利用促進に向けた課題〕

■幅広いエリアからの需要の引き込み
・沿線の学生・生徒数が減少するなか、ことでんの利用を維持していくためには、利用者となりうるターゲットを拡大することが必要です。
・特に、市街地の外延化が進む現状においては、駅からの徒歩圏における人口集積減少が懸念されるため、駅から離れた公共交通の空白地やサービス水準の低い地域における需要を、路線バス、タクシー、自動車等の他の交通手段と連携して引き込むことが重要です。

■土地利用や交通体系の変化等に応じた需要の引き込み
・市街地の外延化、大規模商業施設の郊外立地等の土地利用の変化により、現在の駅配置が主要な交通発生源に対応していない状況が生じています。
・このため、需要に応じて新駅を配置し、主要な交通発生源を駅勢圏に取り込むことが重要です。
・また、高速バスは、琴平線の三条・太田間で国道 11 号と交差するものの接続していないため、ことでん（特に琴平線）沿線の高速バス利用者の利便性を高めるうえで、新駅を設置し、接続性を高めることが重要です。

■ニーズに応じたことでんのサービス向上
・幹線道路と競合関係にある厳しい状況下において、ことでんの需要の維持・向上を図るためには、可能な範囲でことでんの利便性を高めていくことが望まれます。
・このため、利用者からのニーズの高い運行頻度については、サービス向上を図っていくことが望まれます。
・また、瓦町駅、高松築港駅等における鉄道駅相互における乗り継ぎ向上を図るうえで、乗り継ぎに資するダイヤの調整や動線の整備等の対応を図っていくことが重要です。

■ことでんを支える県民意識の高揚
・上記のサービス提供側の取組みを実施するのみで、県民がことでんを支える意識のないままでは、十分な効果は期待できません。
・このため、様々な啓発的なアプローチにより、県民がことでんをはじめとする公共交通の重要性や優位性に対する理解を促すことが必要です。